

中央手術部

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

部長（教授） 堀江 久永
副部長（准教授） 鯉沼 広治（中央材料室 室長）

2. 中央手術部の特徴

自治医科大学中央手術部は昭和47年に開設され、平成14年8月新棟竣工とともに新館手術室へ移転し現在に至っている。新館手術室はハイブリッド手術室を含む清浄度クラス100の手術室4室とクラス1000の手術室が11室で構成されている。2006年にとちぎ子ども医療センター内に手術室2室が追加された。さらに2018年新館南棟に鏡視下手術専用室2室、ロボット支援手術専用室1室を含む6室（清浄度クラス100の手術室3室とクラス1000の手術室が3室）追加され、合計23室で運用されている。

（1）診療記録の電子化

平成14年の新棟移転とともに、病棟情報システム構築の第一歩として、まず麻酔記録の電子化が行われ（J-CAN：Jichi-Clinical Advanced Network System）、平成18年からは院内の電子カルテシステム（JUMP：Jichi Medical University Universal Medical Information Program）と連携しており、手術申込み、手術記録、保険情報記録、看護記録などがすべて一元管理となっている。

（2）中央材料室

中央手術部に併設される形で中央材料室を備えており、医師2名（兼任）と専任の主任看護師を配置し、委託業者と共に手術機器の点検、消毒業務を行っている。滅菌業務の増加に伴い2015年より24時間稼働している。

（3）先進医療機器の設置

現代の進化する手術に対応するべく、医療機器を毎年更新、整備している。手術室にはモニター用カメラが設置され手術室内の状況をコントロール・ルームで監視することができ、またこれとは別に手術野の映像をプラズマディスプレイに表示し、臓器移植手術の進行の調整や学生・研修医の教育、学会の発表などに用いられている。2015年より手術支援ロボット（da Vinci Si）が導入された。2016年1月からはハイブリッド手術室にて経カテーテル大動脈弁植え込み術（Transcatheter Aortic Valve Implantation：TAVI）が開始された。2023年より医療ロボットの更新と造設が行われda Vinci Xiが2台稼働している。

3. 実績・クリニカルインディケーター

2023年の月別手術件数

月	1	2	3	4	5	6	
手術件数	790	818	921	789	785	858	
月	7	8	9	10	11	12	計
手術件数	817	843	778	903	849	853	10004

4. 2024年の目標・事業計画等

コロナウイルス感染症は収束により目標としていた年間手術件数10,000件を達成できた。引き続き、地域医療の拠点としての救急医療と、大学病院としての高度な医療の提供の両立を図りながら、年間手術件数11,000件を目標に手術件数の増加に取り組む。